



中舛竹田荘は、旧東海道沿いの有松町並み保存地区に建つ、有松絞りの開祖竹田庄九郎ゆかりの歴史的建造物である。この建物の老朽化に伴い、取り壊して共同住宅を建築する計画が立てられた。取壊す直前の平成19年7月、この計画に待ったをかけたのが、有松まちづくりの会と名古屋市であった。これを受けて、有松の旧街道の町並みに調和する外観を求め基本計画と設計は大幅に変更され、高齢者用賃貸住宅とデイサービスのための建物として、全てが完成したのが平成22年10月であった。この間、平成22年3月、中舛竹田荘の再生保存を目的として「有松まちなみ保存ファンド募金」が設定され、集められた浄財660万円が建築費の一部に充てられている。

私ごとであるが、この建物の前に立ったとき、西三河部にある農家の陽あたりのいい縁側にすわり、木綿布に付けられた印を糸で黙々と括る、今は亡き私の祖母の姿をふと思い出した。400年の歴史を有する有松絞りの一工程を、彼女は担っていたのである。



人々の営為やその歴史は、建物や町並みに残るのかもしれない。歴史的建造物や町並みの保存は、我々の営為や歴史の保存でもあるのだろう。中舛竹田荘とその周辺地域は、これからも守っていききたい、我々の歴史を残す建物と町並みである。

都築 敏 Satoshi Tsuzuki

住 所	名古屋市緑区有松	
建築主	竹田敏彦	
設計者	株式会社加藤設計	
施工者	OPUSスタイル株式会社	
概 要	主要用途	老人デイサービスセンター、高齢者優良賃貸住宅
	構 造	木造
	階 数	2階
	敷地面積	921.94m <sup>2</sup>
	建築面積	391.68m <sup>2</sup>
	延床面積	499.06m <sup>2</sup>

なまますたけだそう  
名古屋市緑区有松

## 中舛竹田荘

1.2.3 photo/OPUSスタイル株式会社 (2010)



第19回

# 愛知まちなみ 建築賞

表彰作品集 2011



AICHI  
MACHINAMI  
KENCHIKU  
SHO

# AICHI

# MACHINAMI

# RENCCHIKU

# SHOW

## 愛知まちなみ建築賞について



愛知県知事

大村秀章

Hideaki Omura

愛知県では、魅力的な地域づくりには良好な景観形成が必要と考え、自然、歴史、生活、産業などの景観特性を生かし、未来につなぐ緑豊かな「美しい愛知づくり」を推進しています。その取り組みの一つであります「愛知まちなみ建築賞」は、まちなみの構成要素である建築物が良好な地域景観の形成に積極的に関わり、一定の社会的な役割を果たすことが重要であるという認識のもと、新しいまちなみ景観の形成を先導してモデルとなるものや、まちなみに調和し地域の特色ある景観を創造しているものなど、社会貢献度の高い建築物やまちなみを表彰する制度として平成5年から実施しております。

本年度は、116作品の応募をいただきました。これら多くの作品の中から選考委員会での厳正かつ熱心な審査によって選ばれた7つの受賞作品は、建築物の美しさのみならず地域景観への影響も含め、本賞の名前の通り、愛知の「まちなみ」および「建築」をけん引していく作品として高く評価されるものばかりです。

昨年3月には東日本大震災がありました。

我々は、建築物の「安全・安心」の重要性を痛感しただけでなく、地域との繋がりや世代を超えた交流、更には地域環境を守ることの重要性も再認識しました。今回の受賞作品は、地域の景観を深く理解して設計された集合住宅や店舗、次世代を担う子どもたちへの教育施設、まちづくり協議会や地元自治体の協力によりまちなみを守った古民家再生プロジェクト、地域住民との新しい関係をつくる病院など、社会が抱える様々な課題に建築がどう向き合っていくべきかを、一つの回答として示した作品が揃っています。これらの受賞作品が今後も多くの人々に愛され、また地域のより良い景観づくりに寄与していくことを期待しております。

最後になりますが、広くご関心を寄せていただいた県民の皆様をはじめ、熱心に審査していただいた選考委員の皆様、温かいご支援をいただきました後援・協賛団体の方々へ、厚くお礼申し上げます。

今後とも、県民の皆様と連携し、魅力あるまちなみの形成を通して、美しい愛知づくりに取り組んでまいりますので、ご理解とご支援をお願い申し上げます。

## 受賞作品 (50音順)

- 01 | Sunlight of Calm [名古屋市名東区]
- 02 | しっぽうちょう調剤薬局 [あま市]
- 03 | 総合病院 南生協病院 [名古屋市緑区]
- 04 | 飛島村立小中一貫教育校 飛島学園 [海部郡飛島村]
- 05 | 豊田市自然観察の森 ネイチャーセンター [豊田市]
- 06 | 中舛竹田荘 [名古屋市緑区]
- 07 | 名古屋市科学館 理工館・天文館 [名古屋市中区]



練り込み技法による記念銘板  
作/陶芸家 水野教雄

### 選考基準

良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているもののうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

#### 1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 新しい地域景観の形成を先導し、モデルとなるもの。
- デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
- 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。

#### 2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。

(以下例示)

- 地域の風土を生かし、新しい地域文化を創造しているもの。
- まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
- 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。

#### 3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
- 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
- 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。

#### 4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

### 選考経過

#### 推薦・応募対象

愛知県内で、平成18年4月1日から平成23年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準に該当するもの。

#### 推薦・応募期間

平成23年7月1日から平成23年8月20日まで

#### 推薦・応募総数

120通(116作品)

#### 第1回選考委員会

平成23年9月9日 一次選考を行い、22作品が通過

#### 第2回選考委員会

平成23年11月9日 二次選考を行い、7作品が受賞

#### 表彰式

平成24年2月1日

### 選考委員 (順不同/敬称略/●印は選考委員長)

- 有賀 隆 早稲田大学理工学術院教授
- 生田 京子 名城大学准教授
- 伊藤 恭行 名古屋市立大学教授
- 岡田 憲久 名古屋造形大学教授
- 北川 啓介 名古屋工業大学大学院准教授
- 都築 敏 特定非営利活動法人ビジュアルコンテンツプロダクトネットワーク理事長
- 伏見 清香 広島国際学院大学教授
- 佐藤 東亜男 社団法人愛知建築士会会長
- 朝岡 市郎 社団法人愛知建築士事務所協会会長
- 谷村 茂 社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会会長
- 松井 宏夫 愛知県建設部建築担当局長